



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎0276-88-5511 (代表)
☎0276-47-5007 (企画課直通)
☎0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第五十五回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けします—。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



「子どもが生まれる」ことから子生観音。「どんな^{こぶ}瘤でも取ってくれる」ことから瘤観音ともいわれます (写真は改築当時【2006年】のこぶ観音)

石打のこぶ観音【子生観音編】

石打の住谷崎に明言寺という千手観音を本尊にしているお寺があります。一般には「こぶ観音」と呼んでいます。

昔、刀や剣を商売にしていた重兵衛という夫婦がいました。二人は子どもがなかったので毎日一心に、観音様を拝み「どうか子どもをお授けください」とお願いしていました。すると間もなく妊娠し、やがて玉のような男の子が生まれました。夫婦は喜び、すぐに観音様にお礼を申し上げます。

それから数日後、見ず知らずの旅の僧が夫婦の家を訪ね、「この子は観音様がお授けになられた赤ちゃんです。この千手観音様を差し上げますから、守り本尊として大切にしてください」と言ってお礼を授けて立ち去りました。

夫婦はこの子どもに重次郎と名付け、大事に育てました。やがて、子どもは立派に成長し、体格も良く、力がありましたので武士になりました。重次郎は親の許しを受けて、源氏の大将義経の家来になって、戦に出掛けることになりました。そのとき両親から「これは、おまえの守り本尊様であるから、いかなる時も肌身から離すでないぞ」と言われ、千手観音の仏像を渡されました。

重次郎はこの仏像を身に付けていれば、必ず敵を倒すことができると深く信じ、大きな手柄を立てました。義経は、ほうびに自分の名を一文字付け、義清という名前を与えました。義清は、こうした功績も守り本尊様のおかげである。これからは戦いで亡くなった人々の供養をしたいと思い、僧侶になり、諸国を巡り歩いて供養を続けました。

たまたま石打村の里に着きますと、今まで次から次へ足が進みましたが、どうしたことが一休みしているうちに、この場所に末永く観音様の像を据え置いて、お祭りしたい気持ちになりました。これは、おそらく観音様のおぼしめしだろうと思い、ここにお寺を建て、千手観音を寺の本尊として留まることにしました。

それからは、この寺で一生懸命朝夕のお勤めに励みました。やがて「任職は観音様の申し子だ」という噂が世間に伝わり、子どものない若い夫婦が寺を訪れ、観音様にお願いをするようになりまし。おかげで子どもが生まれた人々は「子生観音」といってお礼参りをしました。こうして、今では遠くまで、「子生観音」の名が知られるようになりました。

— 次号の広報おうら2月号では、石打のこぶ観音【瘤観音編】をお届けします —

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成 10 年 12 月 31 日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より

ひとりごと From editors

邑楽町には人気の年越しスポットがあります。編集後記を読んでくださった人だけに、こっそり教えます。▶まずは上の欄で紹介されている「こぶ観音」。大晦日から2年参りの参詣客で賑わいます。町内はもちろん、町外からも多くの方が訪れます。若い人たちが多いのが特徴です。▶次に多々良沼公園の浮島弁財天。沼の対岸の松林から昇る初日の出は圧巻です。白鳥の優雅な姿も見られます。▶そしてシンボルタワー未来MIRAIの展望室から初日の出。邑楽町で一番高いところから見る初日の出は最高です。思い出に残ること間違いなし。▶あなたはどれを選びますか。それともやっぱり寝正月……かな。何はともあれ、2016年があなたにとって最高の年になりますように。(田中)



役場庁舎
ナイトビュー
(シンボルタワー)



Photo 広報担当者⑤



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。